特集 はこまち対談

Part 18

人の幸せのために

まちづくりセンターにて

三谷 真理（みたに まり）さん

函館市地域包括支援センター こん　センター長

〈PROFILE〉

昭和 63 年北海道大学経済学部卒業後、リクルート社へ勤務。平成 4 年今整形外科の医療事務、平成 11 年同法人が経営するグループホーム「こんはこだて」のホーム長となる。平成 18 年には函館市地域包括支援センター「こん」センター長に就任。社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士

今回は、 地域包括支援センターを拠点に福祉活動をしている三谷真理さんです。

丸藤：　地域包括支援センターの活動について教えてください。

三谷：　主に、高齢者の方とか高齢にまつわる相談を受けているセンターで、市からの委託で運営しています。今年で、設置されてから７年目になります。

丸藤：　函館市内には何ヶ所あるんですか？

三谷：　６ヶ所です。保健師と社会福祉士と、主任介護支援専門員などの相談員がいて、電話や直接来たりするかたの相談に応じて動きます。

丸藤：　どのような相談がくるのですか？

三谷：　例えば、ご本人とかご家族からで、一人で買い物に行きづらくなったけどどうしたらいいのか？とか、最近体が衰えてきたので何か良い対策はないのか？などがあります。介護保険制度につなぐことが多いのですが、まずは高齢者の自立に向けてというのが動きになります。

丸藤：　相談してくる方は、多いのでしょうか？

三谷：　函館市全体で、今６５歳以上の方が７万８千人くらいいます。うちの担当地区の高齢者は１万６千人ですが、相談は月に１００件くらいあります。

丸藤：　凄い数ですね。

三谷：　一人暮らしで身近に相談できる人がいないとか、深刻なものでは虐待に関わるようなものもありますが、多いのは、腰が痛くなった膝が悪くなったというような生活にちょっと支障をきたしているというものですね。

丸藤：　相談に答えるためには、準備も必要ですね。

三谷：　各種制度をインプットしておくことと、ネットワークづくり、つまり支援してくれる人やつないでくれる人とつながっていることが大切なので、日々の活動の中で専門職のほかに、民生委員さんとか町会の方とかお店の人とかと顔馴染みになるようなことをしています。

丸藤：　福祉の制度って、難しいですよね。

三谷：　そうですね。でも、相談先を分かっていると大丈夫です。障害福祉とか精神福祉といったより専門的なことは、その道の専門の人が手伝ってくれます。

丸藤：　幅も広いですよね。

三谷：　最近感づいてきたのですが、福祉って人の幸せのことなんで、なんでも関係すると思うんです。お世話するのが福祉だといった重いイメージを持っていたのですが、色んな現場を経験していく中で、特別なものじゃないんだなと思うようになりました。

丸藤：　福祉という言葉を、とりたてて強調しなくても良い？

三谷：　高齢者の分野で言えば、みんな強いんですよね。本来は。そこをもっと使えたらなと。元気のある人は、もっと町の中に出かけてみる、出かけられるような場所や方法をネットワークでみんなで見出したり工夫したりしていきたいですね。

丸藤：　函館の街については、どう感じていますか？

三谷：　函館には平成４年から住んでます。転勤族だったのであちこち行きました。じっくり居るのは、ここが初めてなんです。ちょうどいいサイズの中に、一通り揃っていますよね。便利だし、病院などもまちのお医者さんから総合病院まであり、すごく恵まれていると思います。

丸藤：　直した方がよいと思うようなことは?

三谷：　色んなことに取り組んでいる人がいるのに、つながっていないなと思います。

丸藤：　被災地にも行かれたんですよね。

三谷：　昨年の８月に大槌町で、仮設住宅に入った方の確認作業等を行いました。

丸藤:　実際に現地を見て、どうでしたか？

三谷：　言葉が出なかったです。体験を直接聞いたときには涙が出ました。今までの人のつながりが、何かアクシデントがあった時には大切になるということですね。そのために日頃からどうすれば良いのかは、テーマになってます。

丸藤：　これから、どのような活動をしていきたいですか？

三谷：　センターとしては、地域で活動する人たちの輪をつくっていく。これまで意識しておじゃましてきた民生委員さんとか町会さんとのつながりをさらに深めたい。それにプラスして、お店とか金融機関とか新聞配達とか生活の中に日常的にある仕組みの中で関心を持つ人がみつかったらいいなと思います。

丸藤：　地域と連携していく。

三谷：　その地域の人が互いの変化をさりげなく気づかい合い、よいタイミングで声をかけられるつながりづくり、気兼ねせずに相談ができる場所や人づくりをしていきたいです。

丸藤：　以前はサッカーをしていたと聞いています。

三谷：　今は何もやってないですね。ダメですね（笑）私、あんまり仕事とプライベートを分ける感覚がなくて、いわゆるワーカーホリックだと思うんです（笑）仕事がらみでということが、あんまり苦じゃないんですよね。ちょっと整理はしたいなと思ってはいます。

丸藤：　私もそうかもしれません（笑）

三谷：　でも、それって幸せだなと思います。贅沢させてもらってるなと思うんですよ。

丸藤：　最後に、まちづくりセンターを利用する方の中には福祉分野のことは難しいと言う方も多いのですが、何かアドバイスをお願いします。

三谷：　みなさんが活動していることが既に福祉だと思います。福祉というと、実際の介護とか狭い意味での直接援助みたいなのをイメージしがちですが、もっと広い意味で、住みやすい街になっていけばいいのだと思います。そのための、つなぎの場があるといいですね。

丸藤：　ＮＰＯまつりなどが、その役割を担えるようになれば理想的かもしれませんね。

〈聞き手〉 函館市地域交流まちづくりセンター
センター長　**丸藤 競**